

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
東京ダービー	2019/6/5	SI	大井	2000m	スローペース	良	能力比較

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	カジノフォンテン	牡3	56	本田	カジノドライブ	ナスルーラ系	ベストタイアップ	ノーザン系	C	B	B	B	B	B		
	2	オーシャンブラック	牡3	56	柏木	ストロングリターン	ロベルト系	ジェニユイン	サンデー系	D	C	D	C	D	D		
2	3	ゴールドプリンス	牡3	56	藤本	プリサイスエンド	ミスプロ系	ゴールドアリュール	サンデー系	D	B	C	D	C	C		
	4	ジョーバイロライト	牡3	56	川島	パイロ	ナスルーラ系	ダイワメジャー	サンデー系	D	D	C	B	C	C		
3	5	サクセッサ	牡3	56	石崎駿	アドマイヤオーラ	サンデー系	ブラックタキシード	サンデー系	D	C	C	B	C	C		
	6	イグナシオドーロ	牡3	56	赤岡	ヴィットリオドーロ	ノーザン系	スマートボーイ	ノーザン系	B	B	B	A	B	B	△3	
4	7	グリーンパルフェ	牡3	56	真島	トビーズコーナ	ノーザン系	メジロマックイーン	パーソロン系	D	B	D	C	C	C		
	8	アギト	牡3	56	左海	トゥザグロリー	ミスプロ系	プライアンスタイム	ロベルト系	D	B	C	D	C	C		
5	9	シビックヴァーゴ	牡3	56	笹川	ハゴ	ナスルーラ系	ジャングルポケット	ナスルーラ系	D	B	C	C	C	C		
	10	ウィンターフェル	牡3	56	森	ダノンバラード	サンデー系	プリサイスエンド	ミスプロ系	B	A	A	B	A	B	○	
6	11	ヤマショウブラック	牡3	56	高松	ルースリンド	ミスプロ系	ダンスインザダーク	サンデー系	C	C	B	C	C	B	△2	
	12	ミュウチャリー	牡3	56	御神本	パイロ	ナスルーラ系	プライアンスタイム	ロベルト系	A	A	A	C	A	B	◎	
7	13	ヒカリオソ	牡3	56	山崎	フリオソ	ロベルト系	サウスヴィグラス	ミスプロ系	B	B	B	A	B	B	▲	
	14	アエノエンペラー	牡3	56	吉原	フリオソ	ロベルト系	スウェプトオーヴァーボード	ミスプロ系	C	A	B	C	B	B	△1	
8	15	コスモマーヴィ	牡3	56	矢野	ロージズインメイ	ハイロー系	シンコウキング	ミスプロ系	D	B	D	C	C	C		
	16	サージュ	牡3	56	和田	サクラプレジデント	サンデー系	Cure the Blues	ターントウ系	D	C	D	D	D	D		

隊列図	見解	ラップタイム
イグナ ヒカリ サクセ ウイン シビッ コスモ ミュウ アエノ サージ	東京ダービーの舞台はご存知の通り小細工が利かない大井2000m。最初の1コーナーまでに十分な距離があり、グルッと一周して4コーナーを回ると地方最長の386mの直線が待ち構えている。強い馬が強い競馬をするためのコースと言ってよく、枠順だけで勝負が決まりがちな昨今の日本ダービーとは異なり、昔から文字通りのガチンコ勝負になりやすい。クラシック一冠の羽田盃も似た舞台設定の大井1800m。特に今年の羽田盃は上位と下位で決定的な差がついており、昨年の東京ダービーのような羽田盃敗退馬の下克上は起こりにくいだろう（昨年の東京ダービーは羽田盃3→7→5着馬で決着）。今年の東京ダービーは羽田盃の結果を尊重しつつ、別路線組で買える馬/買えない馬をしっかりと見極めていきたい。それでは予想にいきましょう。	回顧
スローペース	本命は ミュウチャリー の二冠が濃厚だろう。雲取賞からひと息入れて臨んだ羽田盃では2着ウィンターフェルに5馬身差をつけるド派手なパフォーマンス。その着差が決定的だったのはもちろん、それ以上に驚かされたのは上りの速さ。（以下省略）	次走狙い馬

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	カジノフォンテン		羽田盃ではミューチャリー、ウィンターフェルに次ぐ着順。当然、圏内の1頭ではあるが、揉まれたくない本馬にとって最悪ともいえる1番ゲート。リスクと人気とのバランスを考えて軽視したい。		
	2	オーシャンブラック		年明けの雲取賞（16着）以降、南関東の重賞では全く通用していない。前走東京湾カップでは13頭立ての10着。苦戦必至だろう。		
2	3	ゴールドプリンス		今年の東京ダービートライアルは例年以上に低レベルだった。東京ダービーは2分6秒台の決着になることが多く、前走の走破時計（2分9秒0）的にも一級線相手では通用しないだろう。		
	4	ジョーパイロライト		京浜盃では4着と健闘したが、当時はミューチャリー不在でヒカリオーソも鼻出血でレースにならず。相対的に着順を上げただけで、評価できる一戦ではないだろう。本質的に小回り向きのスピード型。大井2000mも向いていない。		
3	5	サクセッサ		一冠目の羽田盃は淀みなく飛ばしたトーセンボルガ（15着）を早めに追いつき、直線入り口で先頭に立つた冴な競馬。着順以上に評価していい一戦だが、終いは完全に止まっており、力負けだったのも事実だろう。上位勢との能力差は大きく、馬券圏内までの好走は難しい。		
	6	イグナシオドーロ	△3	近2走は全日本2歳優駿14着→東京湾カップ13着と大敗しているが、ともに左回りのコース。右回りでは安定した走りを見せており、左回り→右回りで一変する可能性が少しあるかもしれない。昨年の北海道2歳優駿ではウィンターフェルと一騎打ちを演じて勝利している。		
4	7	グリードパルフェ		前走東京湾カップでは羽田盃8着のサクセッサに0.9秒差をつけられての2着。今回はそのサクセッサでさえ通用するか怪しく、本馬ではさすがに苦戦必至だろう。		
	8	アギト		雲取賞では4着に健闘するも、その後は京浜盃8着、羽田盃10着と見せ場すら作れず。溜めるだけ溜めてバテた馬を交わすだけで終わるのでは。		
5	9	シビックヴァーゴ		2走前の京浜盃では見どころのある6着だったが、いま振り返ると、相手関係に恵まれていた。今回は当時よりも遥かに強力なメンバー。2走前だけ走っても上位争いは難しいだろう。前走羽田盃（13着）もいくら何でも負け過ぎ。		
	10	ウィンターフェル	○	前走羽田盃では京浜盃からパフォーマンスを上げるも、前に1頭怪物がいただけ。3着ステップンウルフには0.5秒と決定的な差をつけており、今回はそのステップンウルフが不出走なのであれば、羽田盃2着以下の組では能力がアタマひとつ抜けているだろう。		
6	11	ヤマショウブラック	△2	父ルースリンドのような重さがなく、差し馬ながら器用に立ち回れるのが大きな武器。デビュー2戦目以降、11戦連続でより2位以内をマークしており、終いは確実に伸びてくる。前走羽田盃でもミューチャリーに次ぐより2位をマーク。展開次第で馬券圏内に突っ込んで来ても不思議ではない。		
	12	ミューチャリー	◎	羽田盃では2着ウィンターフェルに5馬身差をつけるド派手なパフォーマンス。その着差が決定的だったのはもちろん、それ以上に驚かされたのは上りの速さ。近年の大井2000mで3歳馬がより36秒台をマークするのは異常で、この数字だけでもミューチャリーがいかに規格外かを物語っている。		
7	13	ヒカリオーソ	▲	前走京浜盃はまさかの敗戦を喫したが、レース中に鼻出血を発症しており、全くのノーカウント。2走前の雲取賞では馬場の恩恵を受けたとはいえ、ミューチャリーを押さえて優勝。当時、騎乗していた瀧川騎手はレース後に「最後は遊んでいたし、余裕もあった。」と述べており、秘める能力は相当だろう。		
	14	アエノエンペラー	△1	使われるごとにパフォーマンスを上げており、ここに来ての充実ぶりをうかがわせる1頭。前走羽田盃では勝ち馬ミューチャリーから2.5秒差の7着と完敗も、後方2番手追走→直線大外ぶん回しで消化不良の面があった。上りは全体の3位。乗り方、展開ひとつでもう一段上のパフォーマンスを見せられる。		
8	15	コスモマーヴィ		重賞初挑戦がいきなりダービー。このメンバーでは能力が圧倒的に不足している。		
	16	サージュ		前走東京湾カップでは勝ち馬サクセッサから1.0秒差の3着と完敗。今回は相手が一段と強くなっており、掲示板に入ることさえ難しいはず。		